

桃介橋

日本最長の木造吊り橋

この 1922 年に竣工された橋は、ここから約 1km 下流の読書発電所の建設資材を輸送するために建設されました。桃介橋は、端から端までの全長が 247m で、3 基の石造の橋脚に支えられた 4 径間の国内最長の木造吊り橋です。

川幅がより狭い下流にこの橋を建設すれば費用を節約することができましたが、この橋と発電所を企画した実業家、福沢桃介は、派手好きだったため費用よりも美的な面を重視しており、橋の長さが長いとより優雅なものになるため、桃介は、川幅がより広いこの場所に桃介橋を架けることにしたのです。

当初の橋は、クリ、マツとスギ材を使って建造され、その中央にはトロッコ用の鉄製レールが敷かれていました。時間の経過とともに木材が朽ち始めると、桃介橋の危険性が次第に高まり、1978 年には一般の立ち入りが禁止されました。この橋は、2 年間の復原作業を経て、1993 年に再び開通しました。復原された桃介橋は、地元産のサワラとヒノキ製で、かつて鉄製のレールが敷かれていた個所にはアフリカ大陸産の硬木、ボンゴシ材がはめ込まれています。

中央橋脚からは、堂々とした階段が川の神を祀った小さな祠のある砂州へと続いています。下の川を見下ろすようにそびえる右岸に最も近い橋脚には、この橋を建設した大同電力株式会社という名称と、竣工年月の大正 11 年 (1922 年) 9 月という文字がかつて刻まれていました。